

総務常任委員会

平成27年度幸手市一般会計歳入歳出決算の認定 (議案第53号)

問 ふるさと納税について、寄附金が平成26年と比較すると、約1700万円の減となっているが執行部側としてはどのような原因と捉えているのか。

答 平成26年度と比較して、寄附の件数が約1800件減っている。要因としては、幸手市はそれまで、県内でも寄附金の額、件数は上位をしめていたが、ご承知のとおり、全国的にふるさと納税の件数が加熱している状況にあるため、幸手市の近隣市町もかなり力を入れ始めている。



そのような状況から、県内でもいろいろなところに寄附者が散らばったという分析はしている。

問 教育費県補助金の中で、被災児童生徒就学等支援事業費補助金13万2千円とあるが、1人当たりいくらか。

答 対象は、東日本大震災時に避難してきた中学生1人分である。平成27年度で3年生だったので、その後は対象にならないと考えている。



問 財政運営をするとき、類似団体と比較するのも一つの方法だが埼玉県内で一番近い団体で、標準財政額で近いのは白岡市である。市税割合が51%に対して幸手市は40.7%である。近くの団体の分析はいかがか。

答 要因としては、数年前から認識している。市税等を踏まえた年齢構成が、白岡市は比較的若い。久喜市においても人口規模は違うが、比較的市税納税者の割合を踏まえると、幸手市より年齢層が若いのかと考えている。

問 固定資産税は、埼玉県で比較すると下から2番目ぐらいである。路線価が低い土地であるかもしれないが、今後の見込みに関してはいかがか。

答 固定資産税については、これから工業団地が開業されるので税務課として推計をしてみると、固定資産税で約3億円から4億円は見込めると考えている。

固定資産税は比較的安定した財源であるので、その3億円、4億円増えた財源で推移していくと見込んでいる。

問 財政調整基金預金利子については、平成26年度が118万7602円であり約9倍跳ね上がった。その要因は。

答 日銀の金融緩和により低金利が続く中、今までは基金については定期預金を中心に行っていたが、運用効率が低いため昨年、1億円で埼玉県債の20年県債を8月に購入し運用した。利率が普通の預金利子と違い1.216%で普通預金の10倍ほどの利率があったので債券運用をした。

今年の2月になり、日銀のマイ

ナス金利政策により、長期金利がだいぶ下がりに逆に債権が上がったことで3月に埼玉県債を売却した。その売却益が4万8千円で、1.216%の利率を入れて、全体では債権のみで915万9276円の運用益確保をすることができた。

平成28年度幸手市一般会計補正予算 (第2号) (議案第65号)

問 公共施設整備基金繰入金の1億5千万円の減額は。

答 当初予算で、平成28年度の西口区画整理の繰出金等に充当するべく取り崩しを予定したが、平成27年度の決算余剰金が出たことで取り崩しの必要性がなくなったので1億5千万円を補正した。

問 1億5千万円は全額区画整理へ予定していたのか。

答 内訳は、西口区画整理に1億2千万円、古川橋の架け替え工事に3千万円を当初予算で予定していた。

文教厚生常任委員会

平成27年度幸手市一般会計歳入歳出決算の認定
(議案第53号)

問 デマンド交通は、利用したい日の朝に電話しても予約がいつぱいで利用できないこと、帰りの時間がわからないので予約が難しいなどの話を聞くが、デマンド交通の受付状況は。

答 時間帯や曜日で偏りがあるが、少しずつ平準化され、若干、予約を取りやすくなると感じる。平成28年度運行のデータや利用者の声などから、見直しは検討していきたい。

問 社会福祉総務費の災害見舞金の支払状況は。

答 関東・東北豪雨の台風18号の影響により、床上浸水した家屋への見舞金が90件で180万円。その他火災による見舞金が4件で44万円である。

平成27年度幸手市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定
(議案第54号)

問 平成27年度の特定健診の受診率は38・5%であったが、その政策評価は。

答 受診率の目標を60%としていたので、まだまだ低いという評価である。

問 受診率を上げる施策は。

答 平成28年度から、各医院で受けられる個別健診の対象年齢を、65歳以上だったものを、40歳以上と範囲を広げたこと。また、PRに務めることである。



平成27年度幸手市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定
(議案第56号)

問 高齢者・障がい者地域見守り支援ネットワークとは、どのようなネットワークをつくらうとしているのか。

答 地域の方に見守っていただくのが一番と考え、地域の民生委員や自治会長、区長のほか、店舗の方、新聞配達の方などからの情報を、このネットワークを通じて、介護福祉課や地域包括センターに報告してもらい、見守りを強化していきたい。

平成28年度幸手市一般会計補正予算
(第2号)
(議案第65号)

問 街路灯設置事業補助金の内容は。

答 この補助金は、地域の街路灯設置にかかる費用の6割を補助するもので、当初予算の1千万円が、6月末にはなくなってしまう状況から補正予算を計上した。

問 母子家庭・父子家庭自立支援

給付金を増額補正した理由は。

答 母子家庭・父子家庭の父母が就職に有利な看護師、介護福祉士、保育士、理学療法士などの専門資格の取得を促進し、生活負担の軽減を図ることを目的に、その修業期間に対して、給付金を支給するもので、当初4人を見込んでいたが、新たに申請者が1人増えたことにより増額補正するものである。

問 香日向地区污水管内調査業務委託料の内容は。

答 コミュニティセンター北側、香日向4丁目地内の污水管マンホール周辺が沈下し、目視したところ、污水管が破裂している可能性があることから、延長41メートルの範囲で、管内にカメラを入れて、調査するものである。

問 幸手小学校校舎大規模改修工事を減額補正した理由は。

答 平成28年度当初予算で実施予定であったが、急きよ国の補助金が付くこととなった。それにより、平成27年度補正予算に計上し、平成28年度予算に計上したものを全額減額するものである。

建設経済常任委員会

平成27年度幸手市一般会計歳入歳出決算の認定 (議案第53号)

問 農業振興費特別栽培米の販売促進委託料60万円とあるが、幸手産米のブランド化推進策は。

答 特別栽培米をリード役として、付加価値化、高品質化、認知度向上で販売を拡大して行く。



問 戦略的作物推進事業補助金13万821円の補助件数は。

答 経営所得安定や農身体質強化につながるような戦略的作物を生産する農家への助成で、該当者は加工用米12人、飼料用米38人、米粉用米9人、特別栽培米5人、大豆38人、飼料作物3人である。

問 ハッピーハンド事業の補助金額が以前より減っている。要因は。

答 候補者の投票にかかる経費と、手形をいただく交渉にかかる費用

は計上しているが、招聘がかなわないということとその部分を対象から外しているのがここ数年の経緯である。

問 都市公園等指定管理業務委託の税務会計処理は協定書どおり行われているのか。

答 代表団体と機構団体が企業グループを作り、税務会計処理は代表団体が担っている。基本協定書では、収入と収支の流れが分かるように別途、企業体単独の口座の設置を定めており、適正に処理されていると考えている。協定書はグループ内の経費区分、税務会計上の処理にまで踏み込んだ表現となっていない。

問 前年度比評価点が低いが。

答 昨年10月に業務改善勧告を行ったことを考慮。評価点を下げた。

問 上高野地区区画整理事業への技術的援助として市は調査設計業務委託料を支出しているが、もう少し慎重に扱うべきではないか。

答 地元権利者組織から技術的援助の申請があり、測量データを市が整備貸与する支援がベストと考えた。地元準備会は平成28年度末を目標に住居系の区画整理で動いていたが、埼玉県の線引き見直しがあり、実現は厳しく再検討すること。

平成27年度幸手市幸手駅西口土地地区画整理事業特別会計歳入歳出決算の認定 (議案第59号)

問 家屋等移転補償は当初の予定どおりの進捗か。

答 当初5名7棟であったが、国の補助金減額等の影響で3名3棟を対象に交渉。全員が移転に合意。

平成27年度幸手市水道事業会計決算の認定 (議案第60号)

問 幸手市は昭和40年代後半にかけて多くの水道管を布設した。現在では全体の6分の1が耐用年数を超過しているが、老朽管の改修率、今後の改修計画は。

答 40年超の管路が22キロほどある。管路の改修計画は1年1億6700万円を基準に、60年を目安に更新していきたい。現在、改修は石綿管をメインに進めている。平成27年度末の石綿管の残延長は、導入管が1.5キロ、排水管が9.8キロである。

平成28年度幸手市一般会計補正予算 (第2号) (議案第65号)

問 農地費の土地改良区特認事業補助金の内容は。

答 中島用水路土地改良区の取水障害に対する事業を特認事業として補助するもの。

問 古川橋架替工事は国の補助金が28・7%ついたが市は交付率が26%と低い方の駅舎事業を進め、同工事を減額延期。得策と思えないが。

答 一般財源を投入すれば今回の配分率で事業は可能だが、重点プロジェクトの見直し段階では決算が確定しておらず、そこまでの判断はできなかった。